

究極の「びんtoびん」リサイクルを実現する エコロジーボトル

ガラスびんは、繰り返し何回でもガラスびんとして再生することができる「びん to びん」のリサイクルを高い割合で実現しています。

回収したガラスびんを砕いたガラス屑(カレット)を、新しいガラスびんの原料として使用することで、びん製造段階での省資源・省エネルギー・CO₂ 排出量削減などの環境負荷低減を図ることができます。



エコロジーボトルって何?

原料としてカレットを 90% 以上使用して生産したびんは「エコロジーボトル」といいます。また、「エコロジーボトル」のなかでも、無色・茶色以外のその他のカレット(混色カレット)を 90% 以上使用したびんを特に「スーパーエコロジーボトル」といいます。

2000年9月、日本ガラスびん協会は「エコロジーボトル」及び「スーパーエコロジーボトル」の定義を決め、その普及促進のためシンボルマークを定めました。商品ラベルにエコロジーボトルマークを付与することは、環境に配慮した商品を購入したいグリーンコンシューマーが店頭で判断する一助になります。

エコロジーボトルご採用商品例

- 左 / ポッカサッポロフード&ビバレッジ『キレートレモン』
- 中 / モンスター『M3』
- 右 / 桃屋『つゆシリーズ』



カレット利用率向上による環境負荷低減の効果

カレット利用率が高まることで、バージン原料(珪砂、石灰石、ソーダ灰)の節約に寄与します。原料中のカレットが 10% 増加するごとに約 2.5% の熱効率がアップするため、燃焼エネルギーが節約できます。

省エネルギーによって、溶解炉で発生する CO₂ や SO_x、NO_x などの排出量が削減され、地球温暖化や酸性雨、光化学スモッグへの配慮につながっています。

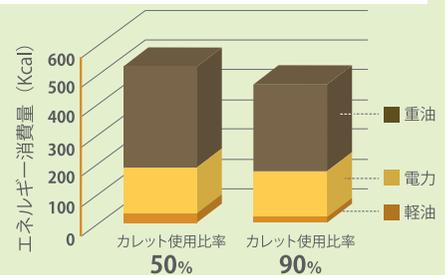
用途が広がるエコロジーボトル

「エコロジーボトル」は、環境問題への関心の高まりと共に様々な分野商品へ採用が広がっています。日本ガラスびん協会加盟各社の「エコロジーボトル」の出荷本数は、2011年をピークに減少に転じましたが 2014年は飲料分野の大型商品登場などにより再び増加に転じています。

カレットの利用率向上のためにはカレットの品質向上が重要な課題です。そのため、自治体への啓蒙活動や異物除去の技術開発が続けられています。今後も、「びん to びん」として国内循環できる新たな「エコロジーボトル」の誕生が期待されます。

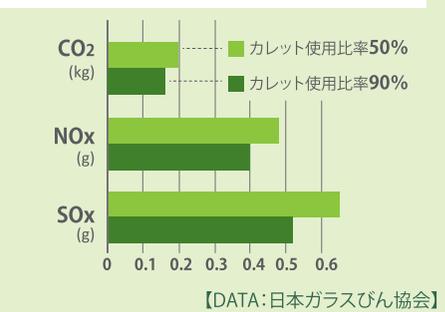
エネルギー消費量への影響

製品1本 (250g) 当たりの製造工程エネルギー消費量



大気系排出物量への影響

製品1本 (250g) 当たりの製造工程大気汚染物質排出量



(単位: 百万本) エコロジーボトルの出荷推移 【DATA: 日本ガラスびん協会】

